

1. とうもろこしのシカゴ定期は、6月には370セント／ブッシェル台で推移していたが、生育期の天候により値動きの激しい展開となり、一時400セント／ブッシェル前後まで上昇した。その後、受粉期の天候が改善したことや、8月10日発表の米国農務省需給見通しで、単収が市場予想を上回ったことなどから軟調な展開が続く、10月12日発表の米国農務省需給見通しで、期末在庫が上方修正されたことなどにより、現在は340セント／ブッシェル台となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、6月には330ドル／トン台で推移していたが、高温乾燥による米国産大豆の作柄悪化懸念から360ドル／トン台まで値上がりした。その後、天候の改善により下落に転じ、8月10日発表の米国農務省需給見通しで、単収見通しが上方修正され期末在庫が増加したことなどから軟調な展開が続いたが、米国産大豆の輸出需要見通しが増加したことや10月12日発表の米国農務省需給見通しで、期末在庫が下方修正されたことなどにより上昇し、現在は350ドル／トン前後となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、5月には37ドル／トン台で推移していたが、中国向け大豆や石炭などの輸送需要に加え、南米産穀物輸出が増加したこと、原油相場が堅調に推移していることなどから値上がりし、現在は40ドル／トンを超える水準で推移している。
4. 外国為替は、6月中旬には110円前後であったが、米国の利上げが6月に行われ、年内の追加利上げ観測も高まったことなどから114円台まで円安がすすんだ。その後、米国の経済政策に対する先行き不透明感や北朝鮮情勢のリスクの高まりなどから円高がすすんだものの、年内の利上げ観測が高まったことなどから円安となり、現在は113円前後となっている。

